

大好きなものを見つけて!

ふる さわ たく や

古澤 拓也

平成8年5月8日生まれ、横浜市出身。
平成20年12歳の時に二分脊椎の合併症(脊髄空洞症)により車いすユーザーになる。
13歳の時、横浜ラポールの事業として開かれていた車いすバスケットボール教室を体験し、車いすバスケットボールを始めた。
高校2年生でU23日本代表に選抜され、2017年U23世界選手権4位。
大学2年生から現在まで日本代表強化指定選手として活躍。



競技を始めたきっかけ

小学6年生までは野球少年でしたが、車いすユーザーになったことをきっかけに「車いすユーザーでもできる競技はないか」と母が探してくれました。障害者スポーツ文化センター横浜ラポールで開催される車いすバスケットボールの体験会に参加してみたらと言われ、しぶしぶ参加したところ面白く感じて、そこから始めました。

競技の特徴(良いところなど)

一般のバスケットボールとほとんど変わらないルールの中、障害の程度が違う選手たちが持ち点(※)というルールの中で、公平かつ本気の勝負ができるのが特徴です。また、競技用車いすに乗ることで、自由に動くことができ、自分の限界を出すことができるような感覚が魅力です。

(※持ち点…車いすバスケットボールの選手にはおのれの障害レベルの重い順から1.0〜4.5の持ち点が定められており、試合中コート上の5人の持ち点の合計が14.0を超えてはなりません)(一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟HPより引用。)

国際大会に出場した際の裏話

2017年のU23世界選手権の際、準々決勝(カナダ戦)に向かっている途中に鳥の糞が自分のズボンに落ちてきました。その日は、シュートタッチが調子よく大活躍することができました。

現在どのような活動をしているのか

現在は競技活動に理解ある桐蔭横浜大学に転学し、さまざまなバックアップを得ながら学業と代表活動の両立をしています。

今後の抱負や将来像など

東京パラリンピックに出場し、金メダルを取る! 将来は海外で活躍し、世界ナンバー1ポイントガードになることが目標です。



写真提供:パラ神奈川ISC

子どもたちへのメッセージ

ぜひ車いすバスケットボールを生で見て、いろいろなことを感じてほしいです。カッコいいでも、すごいでも。そして、自分が楽しめることを見つけてほしいです。スポーツでも勉強でも。そこから夢を見つけて、目標を作り自分自身が納得できる人生にできることを願っています。

競技ファンへのメッセージ

車いすバスケットボールをいつも応援してくれている方々、まだ一度も見たことがない方々、ぜひ会場で観戦してほしいと思います。生で見てもらえれば皆ハマるはず。そして会場で応援してくれることが、僕たちの力にもなります。ぜひ会場でお会いしましょう。



写真提供:パラ神奈川ISC